

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の5年目)

1. 研究課題

20世紀中国史の資料的復元

Reviving the History of Twentieth-Century China by Reviewing the Source Materials

2. 研究代表者氏名

石川 禎浩

ISHIKAWA, Yoshihiro

3. 研究期間

2019年4月-2024年3月(5年目)

4. 研究目的

中国における近現代史の叙述は、領域によって程度の差はあるものの、イデオロギー型革命政党によって統制され、方向付けられてきた。かれらは党派ごとに自己中心的、あるいは独善的解釈による歴史像を持つだけでなく、そうした歴史像を支えるべく、歴史資料の収集やその編纂、刊行にも力を入れてきた。ただし、そのさいに資料はしばしばその歴史像に符合するよう編纂（改竄を含む）されてきたため、政治史にせよ、思想史にせよ、あるいは文学史にせよ、既存の公刊史料に基づく限り、研究者はどうしてもその枠組みから脱却できないという隘路に行き着いてしまう。それゆえ、近代の中国がどのようなものであったのかを知るためには、まず基本的な史料を編纂状態以前にもどすという気の遠くなる作業から始めなければならない。本研究班は、20世紀の中国の政治、運動、文学、芸術といった領域で、それぞれ根本資料と見なされてきた基本文献に関して、その生成や編纂、刊行の経過を洗い直したうえで本来の姿にもどし、それによって中国20世紀史全般を復元し、再構築することを目指す。

The history of 20th century China, whether good or bad, has been written under the dictates of the political parties which have an ideological mindset of the revolutionary. They not only had their own self-centered narratives of the modern history, but also collected and compiled historical materials concerned to reinforce their narratives. The problem is, however, that they often made the falsifications when they edited those source materials into the official documents. Because of this, we should understand how their narratives were formed along with the compilation of the historical materials in the century. In this research seminar, we shall investigate and restore various source documents which has been considered to be the basic materials in each area of modern China, such as politics, revolutionary movement,

literature, art and so on. This type of research, which makes full use of original sources scattered around the world to revive the primary documents of twentieth-century China, would open the way for us to have a refreshing understanding of how the modern Chinese history really was.

5. 本年度の研究実施状況

4月から3月にかけて、合計16回の班例会を開催した。主なものは次の通り（報告者・題目）

- 4月14日 楊奎松 毛沢東「論新段階」及其統戦策略的解読問題
- 4月21日 石川禎浩 中共建党関係資料百年史
- 5月12日 楊韜 近代上海における外国映画上映騒動の考察：ソ連映画『アビシニア』を例に
- 5月26日 森川裕貫 清末における梁啓超の外債論
- 6月9日 周俊 農業集団化の百科事典：『中国農村的社会主義高潮』の編纂、発行及び評価
- 6月23日 高嶋航『大連市志・体育志』の編纂：満洲のスポーツ史をいかに記述するか
- 7月7日 李義成 己亥建儲事件における鄭観応の政治活動；楊睦 清末満洲人の民族論：『大同報』を中心に
- 9月29日 貴志俊彦 1940年代の「影像力」：大戦期の日本写真業界の妥協と実践—総合写真誌『報道写真』『日本写真』から見る

このほか、論文集とりまとめに向け、論文を執筆し、計17篇の投稿を得た。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-04-14 20世紀中国史の資料的復元 毛沢東「論新段階」及其統戦策略的解読問題 発表者 楊奎松 京都大学人文科学研究所 コメントーター 丁麗瓊 京都大学人文科学研究所
- 2023-04-21 20世紀中国史の資料的復元 中共建党関係資料百年史 発表者 石川禎浩 京都大学人文科学研究所 コメントーター 荘帆 京都大学人文科学研究所
- 2023-05-12 20世紀中国史の資料的復元 近代上海における外国映画上映騒動の考察：ソ連映画『アビシニア』を例に 発表者 楊韜 佛教大学文学部 コメントーター 田村容子 北海道大学文学研究科 越野剛 慶應義塾大学文学部
- 2023-05-26 20世紀中国史の資料的復元 清末における梁啓超の外債論 発表者 森川裕貫 関西学院大学文学部 コメントーター 村上衛 京都大学人文科学研究所
- 2023-06-09 20世紀中国史の資料的復元 農業集団化の百科事典：『中国農村的社会主義高潮』の編纂、発行及び評価 発表者 周俊 同志社大学グローバルスタディーズ研究科 コメントーター 瀬戸宏 摂南大学外国語学部
- 2023-06-23 20世紀中国史の資料的復元 『大連市志・体育志』の編纂：満洲のスポーツ史

- をいかに記述するか 発表者 高嶋航 早稲田大学スポーツ科学部 コメンテーター 福家崇洋 京都大学人文科学研究所
- 2023-07-07 20世紀中国史の資料的復元 己亥建儲事件における鄭観応の政治活動 発表者 李義成 京都大学人間環境学研究科 コメンテーター 望月直人 琉球大学国際地域創造学部 清末満洲人の民族論：『大同報』を中心に 発表者 楊睦 京都大学人間環境学研究科 コメンテーター 張子康 京都大学学際融合教育研究推進センター
- 2023-09-29 20世紀中国史の資料的復元 1940年代の「影像力」：大戦期の日本写真業界の妥協と実践—総合写真誌『報道写真』『日本写真』から見る 発表者 貴志俊彦 京都大学東南アジア地域研究研究所 コメンテーター 井上祐子 公益財団法人政治経済研究所
- 2023-10-13 20世紀中国史の資料的復元 ラテン化新文字運動の始動：倪海曙による年表編纂の検討とエスペラント要因 発表者 都留俊太郎 京都大学人文科学研究所 コメンテーター 村田雄二郎 同志社大学グローバルスタディーズ研究科
- 2023-10-27 20世紀中国史の資料的復元 毛沢東の個人独裁と大躍進：指導者の年譜類からの考察 発表者 谷川真一 神戸大学国際文化学研究所 コメンテーター 小野寺史郎 京都大学人間環境学研究科
- 2023-11-17 20世紀中国史の資料的復元 中国のリベラリストと地政学 発表者 水羽信男 広島大学総合科学部 コメンテーター 柴田陽一 愛知県立大学人文学部
- 2023-12-01 20世紀中国史の資料的復元 戦前の中国語教育改革者が見た音読と訓読：支那語学会と倉石武四郎を中心に 発表者 温秋穎 京都大学教育学研究科 コメンテーター 安田敏朗 一橋大学言語社会研究科
- 2023-12-15 20世紀中国史の資料的復元 『盛京時報』は誰が読んでいたのか：近代中国における日系漢字新聞の影響力の射程について 発表者 徐璐 京都大学文学研究科 コメンテーター 和田英男 近畿大学
- 2024-01-26 20世紀中国史の資料的復元 Better Looking than he really is: Being British in Colonial Hong Kong and beyond 発表者 Robert Bickers 京都大学人文科学研究所・ブリストル大学 コメンテーター 秋田茂 大阪大学人文学研究科
- 2024-02-09 20世紀中国史の資料的復元 明清期カントン通事の制度的再検討 発表者 張子康 京都大学学際融合教育研究推進センター コメンテーター 村上衛 京都大学人文科学研究所
- 2024-03-01 20世紀中国史の資料的復元 戦間期の香港における華人エリートと政治参加：潔淨局議員選挙の復元を例として 発表者 小堀慎悟 名古屋外国語大学外国語学部 コメンテーター 谷垣真理子 東京大学教養学部

7. 共同研究会に関連した公表実績

6月17日に「清末民初の東三省」をテーマとした研究会を開催した。李皓氏（東北師範大学）と閻立氏（大阪経済大学）が報告をおこない、徐璐氏がコメントを担当。

8. 研究班員

所内

石川禎浩、瞿艷丹、都留俊太郎、福家崇洋、村上衛、楊奎松、呉孟晋、申晴、李皓、莊帆、丁麗瓊

学内

太田出(人間・環境学研究科)、小野寺史郎(人間・環境学研究科)、貴志俊彦(東南アジア地域研究研究所)、羅亜妮(文学研究科)、津守陽(人間・環境学研究科)、程天徳(人間・環境学研究科)、温秋穎(教育学研究科)、徐璐(文学研究科)、手代木さつき(文学研究科)、関藝蕾(文学研究科)、張子康(学際融合教育研究推進センター)、李羲成(人間・環境学研究科)、楊睦(人間・環境学研究科)

学外

秋田朝美(大阪大学人文学研究科)、岡野(葉)翔太(大阪大学レーザー科学研究所)、韓燕麗(東京大学総合文化研究科)、田中仁(大阪大学法学研究科)、谷川真一(神戸大学国際文化学研究科)、中村元哉(東京大学教養学部)、丸田孝志(広島大学総合科学研究科)、水羽信男(広島大学総合科学研究科)、林礼釗(大阪大学人間科学研究科)、アルス(大阪大学人文学研究科)、鄭成(兵庫県立大・環境人間学研究科)、菊池一隆(愛知学院大学文学部)、島田美和(慶応大学法学部)、周俊(同志社大学グローバルスタディーズ研究科)、瀬戸宏(摂南大学外国語学部)、瀬辺啓子(佛教大学文学部)、高嶋航(早稲田大学スポーツ科学学術院)、郭夢壺(神奈川大学外国語学研究科)、土肥歩(同志社大学文学部)、三田剛史(明治大学商学部)、宮内肇(立命館大学文学部)、森川裕貫(関西学院大学文学部)、山崎岳(奈良大学文学部)、楊韜(佛教大学文学部)、和田英男(近畿大学)、蒲豊彦(京都橘大学)、小堀慎悟(名古屋外国語大学)、郭まいか(日本学術振興会)、団陽子(日本学術振興会)、比護遥(日本学術振興会)、範麗雅、谷雪妮(北京師範大学)、鄒燦(中国南開大歴史学院)、呉世平(復旦大歴史学系)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(内女性)	(2)	(2)	(2)		(2)	(20)	(11)	(11)
人文研所属 (内女性)	1	13	7	5	5	4	110	20	20	16	16
京大内 (人文研を除く) (内女性)	4	19	15	16	15	15	120	102	52	52	74
国立大学 (内女性)	6	9	3	4	4	4	29	25	21	16	16
公立大学 (内女性)	1	1	1	0	0	0	2	2	0	0	0
私立大学 (内女性)	7	10	7	3	3	3	51	23	8	8	6
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	2	3	0	2	2	2	9	0	6	3	7
民間機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関 (内女性)	4	4	4	2	1	0	12	12	10	6	0
その他 ※ (内女性)	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0
計	27	61	37	32	30	28	336	184	117	101	119
※「その他」の区分受 入がある場合 具体的な所属等名称を 記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカ ウントし、この欄の記載不要	大学名誉教授										

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	4		1	
②人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1	(1)	1	(1)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

- ②国際的学術誌である Modern Asian Studies Review (英語/中国語) に発表した Workshop on Contemporary Chinese History (中国当代史研究工作坊) のファーストオーサーとなった。

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	Modern Asian Studies Review	1	R5.4	Workshop on Contemporary Chinese History	石川 禎浩, 久保 亨, 村田 雄二郎, 赵 晋, 高岛航, 张 静, 李 昊, 沙青青, 河合玲佳, 周 俊, 李 玉蓉, 阮清华, 大桥史惠, 林 超超, 横山 雄大, 辛 逸, 郑 浩澜, 田

					武雄, 比护 遥, 中兼 和 津次, 高 浩, 金子 肇, 刘 建平, 小野 寺 史郎, 黄 峥峥
2	東アジア近代史	1	R5.6	台湾農業における「技術の時代」：生産管理の導入と模造・改造農機具の普及を事例に	都留俊太郎
3	軍事史学	1	R5.6	大岸頼好と国家改造運動	福家崇洋
4	Journal of International Studies	1	R5.6	清代中後期學者的課子經驗與效果：以錢儀吉、錢泰吉為中心	瞿艷丹
5	历史教学问题	1	R5.8	日本关西大学藏罗振玉致内藤湖南信三十九封考释	庄帆

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書なし

12. 博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	3 (学内2・学外1)

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

拠点の研究成果刊行助成（出版助成 80万円）を申請し、これが認められたため、この助成金と現代中国研究センター（石川）の運営費、および石川が研究代表を務める科学研究費補助金（基盤B）などの資金を投入して、研究報告論文集「20世紀中国史の資料的復元」の刊行にむけ、版下を作成した。令和6年度はこの版下を用いて、印刷に入り、6-7月あたりにクロス貼りの論文集を刊行し、関係各方面に配布のうえで関連研究会を開催する予定である。